



広島市・長崎市 ノーベル平和賞、推進に向けて

核兵器の拡散、激化する民族・宗教紛争、地球環境問題の深刻化、グローバル経済システムの破綻など、現在の世界が大きな危機に直面していることは、今さら言うまでもありません。このような時代に、人類一人ひとは、情報の洪水と世界の大勢に、ともすればなすすべもなく押し流されがちです。しかし、人類の未来は結局のところ、一人ひとりの人間の意志と行為の集積によって選択され、決定されるものです。このようなときに、私たち日本人は、どのように世界の問題に対処すればよいでしょうか。

言い古されてきたことかも知れませんが、日本は世界唯一の核被爆国として、とくに核廃絶のために国際世論をリードする道義的責任と道義的権利を持っています。しかし、かつては日本中を巻き込んだ核廃絶運動は、現在は一部の人々の運動となり、日本国民の多くは、無関心とは言えなくても、決して全国民・政府をあげての活動にはなっていません。

最近(5/3-5/28)国連本部で、5年に一度の核不拡散条約(NPT)再検討会議が開催されました。世界中から多くのNGO関係者が、そして日本からも過去最多の被爆者約百人を含む二千人がニューヨークに参集し、力強く核廃絶を訴えたこともあって、全会一致で採択された最終合意文書・行動計画の中で、核保有5カ国(米ロ英仏中)による「核廃絶への明確な約束」への取組みが再確認されたほか、「核兵器禁止条約」構想にも初めて言及されました。このような状況を踏まえ、今後日本としては、国際社会との連携も緊密にしつつ、政府・市民社会協働のもとに「核なき世界」の実現に向けてリーダーシップを発揮していくことが求められています。

折しも、IPPNW(核戦争防止国際会議)の副議長として、1985年にノーベル平和賞を受賞したイスラエルのエルネスト・カーン博士(医学博士、詩人)と、ミレニアム平和文化の使者で、国連・ユネスコ活動で熱心に平和と文化につくしているフランスの詩人ギー・クレキー氏が来日します。お二人は、日本が世界平和のために率先して立ち上がることを期待し、そのために、広島市と長崎市が推進している、核被爆者援助、平和都市宣言、そして「平和市長会議」といった、全市民活動あげての核廃絶への熱望と努力に対し、両市こそノーベル平和賞にふさわしいと考え、ノーベル平和賞委員会に推薦して下さっています。

このたび、お二人をはじめ、詩作を通じて平和意識の啓発に努めている世界の著名な詩人を日本にお迎えし、日本が核廃絶を含む世界平和のために果たすべき使命と役割を話し合い、再認識するために、国際平和文化フォーラム「平和への新しいアプローチ」を開催いたします。一人でも多くのおみなさまのご参加をお待ち申し上げます。

実行委員長：東京大学教授・中澤英雄

主催：国際平和文化フォーラム実行委員会 / Peace on Earth Project

助成：JAPAN FOUNDATION 国際交流基金

後援：広島市・長崎市(予定) / NGO Global Harmony Association / NPO ローハスクラブ
NPOクオリティーオプライフ / NPO 山元学校 / 地球市民機構(市民国連)

協賛：NPO 長崎子ども未来ネット(TOSS) / 株式会社ピアンシステムズ / 新日本製薬株式会社
創生ワールド株式会社 / 日本文教新報社/EISU GROUP / 新世紀研究会